



海に見える丘 博物館

能古博物館だより

見上げれば日の丸とZ旗 「海の博物館」のシンボル

帆柱型の木製ポール、高さ7.5m 耐用年数50年の優れもの

理事長兼館長 原 寛

「海の博物館」のシンボル、帆柱型ポールが建って1年余が過ぎました。渡船場のあたりから見上げると、博多湾から吹いて来る潮風を受けて、へんぼんと翻る日の丸と国際信号旗を眺めることができます。

大きな日の丸の下には日本海海戦で有名なZ旗がはためき、そして色鮮やかな「NOKO」と「MUSEUM」の国際信号旗が計3本のロープに賑やかにぶら下がっています。昨年5月末に完成しました。

施工は九州木材工業(本社・筑後市・角博社長。昭和5年の創業以来、電力会社などの求めに応じ電信柱を手がけてきた会社で、福岡県をはじめ熊本・大分・宮崎に広大な社有林を持っています。

しかしながら時代はセメントの電柱が主流。同社は永年培った木材の防虫処理の技術を生かして、公園のベンチや街灯、住宅のデッキ材などにも販路を伸ばしています。

わたしたちは木製のポールにこだわりました。島の豊かな四季の中に建つ博物館には木が相応しいと考えたからです。

行き着いたのが 角社長の会社でした。

楽屋話を二つ ご紹介しましょう。



原 寛

機会があつて

館の関係者が角社長にお会いしました。いきなり「電信柱を一本欲しい。」とねだりました。「意義のある仕事ですね。分かりました」。まだ四十代の角社長は即座にプレゼントの約束をしてくれたそうです。これが誘い水になって、館側も厳しい台所事情の中から建設費用を工面しました。

昨年夏、見事に立ち上がったポールを前に筑紫丘高と早大のラグビー部で活躍した角社長はまたもきっぱりと言いました。「まさに地産地消。福岡県八女で育った杉丸太です。50年間はこちらですよ。(電信柱並みの基礎工事をやったので)絶対に倒れません。」

日の丸と一緒に掲げたZ旗は、我が館の旗印です。1905(明治38)年の日本海海戦でロシア艦隊を破った東郷元帥座乗の旗艦「三笠」のマスト高く掲げられたZ旗にあやかりました。

「皇国の興廢この一戦にあり、各員一層奮励努力せよ。」

対馬海峡の砲声は福岡市民の耳にも届いたと伝えられています。

Z旗に励まされ、ポールの寿命に負けないよう、館の歴史が30年、40年と続いて欲しいと願っているところです。

水彩画「博物館の四季」。能古博物館サポーターズクラブの伊藤公夫さん描く

福岡県指定史跡

亀井(南冥・昭陽)家の墓

墓移設について

浄土真宗本願寺派浄満寺

住職 井浦順爾

昭和三十八(一九六三)年四月五日付で、福岡県指定史跡に認定された、当寺境内の亀井家一族の墓所(十三墓碑)移設の経緯をまとめたものを紹介する。

当墓碑は既に昭和五十八(一九八三)年四月、旧国道202号線拡張のため寺域を約五十坪提供した際に一度移設した経過がある。今回は二〇〇五年の福岡県西方沖地震で被災した当寺本堂の再建事業に関わる理由で移設することになった。今回の再建は築後一八四年の本堂を解体して、これまでより約三〇坪拡張した施設として計画する中で、前庭を確



移設された墓所。ひときわ高いのが南冥先生之墓。

昭陽夫人 名 昭陽 字 鳳 生没不詳	南冥夫人 名 南冥 字 鳳 生没不詳	南冥 名 南冥 字 鳳 生没不詳	千秋夫人 名 千秋 字 徳 生没不詳	千秋翁 名 千秋 字 徳 生没不詳
雲來夫人 名 雲來 字 大壯 生没不詳	玄谷夫人 名 玄谷 字 大壯 生没不詳	昭陽夫人 名 昭陽 字 鳳 生没不詳	瑞洲夫人 名 瑞洲 字 鳳 生没不詳	雷首夫人 名 雷首 字 鳳 生没不詳
天地房 名 天地 字 大壯 生没不詳	雲來夫人 名 雲來 字 大壯 生没不詳	昭陽夫人 名 昭陽 字 鳳 生没不詳	瑞洲夫人 名 瑞洲 字 鳳 生没不詳	雷首夫人 名 雷首 字 鳳 生没不詳

墓碑の配置を示す看板

保するために止むを得ず一族墓碑の移設を申請して認められたものである。

先ず、平成二〇〇八(二〇〇八)年六月に県教育委員会宛「福岡県文化財現状変更許可申請書」を提出して承認を受け、八月二十五日亀井家縁の方々を招き、墓前で法要をお勤めして着工した。施工は国松石材(株)である。

墓所は亀井南冥(白髪書童南冥先生之墓)を中心に、前後二列に配置されている。以下それぞれの墓碑解体時の概略を述べてみる。

前列(向かって右から)

- 昭陽夫人之墓(燗桂信尼)大甕 骨片多数。
- 昭陽先生之墓(亀井昭陽)大甕 頭蓋骨四肢骨 ほぼ原形。
- 貞徽信尼(南冥夫人) 大甕 骨片少々。

○少琴女史墓(緩之童女) 大甕

骨片少々。昭陽長女。

○前回移設の際、

蓋石に「亀井魯道載妻脇山氏柩」(貞徽信尼のもの)とあったので元に戻した経緯がある。



解体作業中の南冥先生之墓

- 賜洲夫人(賜洲・昭陽の子)合祀墓 大甕 頭蓋骨 骨二。
- 玄谷夫人(玄谷・昭陽の子)合祀墓 大甕 頭蓋骨 二。蓋石に文字「亀井義一郎柩 父豆 書」。
- 雲來先生墓(昭陽 弟 大壯) 小甕 表面茶青の袖拭。骨片少々。
- 釋妙壯尼(雲來夫人) 小甕 骨片少々。蓋石文字「亀井佳乃永女」。
- 大年居士 小甕 頭蓋骨あり(昭陽 弟 大年)。

- 白髪書童南冥先生之墓 大甕 骨片少々、伝太刀一振りなし。
- 釋妙心尼墓(千秋夫人) 大甕 骨片少々。蓋石に重ねた大石裏面に文字があった。
- 潮音道喜居士墓(千秋翁)小甕 四肢骨他少々。

後列(向かって左から)

- 雷首山人之墓 中甕 骨片・毛髪多数。蓋石に文字が見られた「亀井源吾柩」(三苦)少琴夫。

付記すれば、今回の移設工事が出たいくつかの骨片の一部は九州大学医学部からの申し出により学術調査が行われているが、結果についてはまだ報告はない。

また、今回の移設に当たってはその詳細を記録写真として残している。以上が今回の移設に関する概略報告である。

(いのうら じゅんじ 敬称略・写真も)

修猷を想う 修猷館と甘棠館

福岡県立修猷館高校

第27代館長 中嶋利昭

亀井南冥劇を上演

平成二十年五月二十九日修猷館創立二百二十五年記念及び校舎改築記念事業として竣工成った本校講堂で『筑前藩校絵巻』猷を修める者』が劇団シヨーマンシップにより上演された。

天明四年二月二つの藩校が同時に呱呱の声を上げた。一つは上級武士を対象に朱子学を教える東学問稽古所修猷館であり、もう一つは下級武士や町民を対象に徂徠学を講じる西学問稽古所甘棠館である。理論を尊ぶ修猷館と、実践を重視する甘棠館の生徒達は事ある毎に対立した。やがて寛政異学の禁による朱子学以外の学問が禁止され甘棠館の亀井南冥は館長職を罷免され、甘棠館も焼失、甘棠館の閉校が決まった。生徒は全員修猷館に編入されわずか十四年で藩校としての使命を終えた。

「道に迷うたら歴史に学べ」

劇のクライマックス、甘棠館焼失の場面で南冥の救出に駆けつけた定良が、まさに崩れ落ちんとする甘棠館の門柱を必死の形相で支え叫んだ。たとえ炎がこの身を焦がそうと、志を奪うことはできぬ。炎よ、去れ！我が名は竹田定良、我が志、奪えるものならば奪ってみよ！一瞬にして涙が一気に溢れだした。隣

の席でご覧になられていた竹田家第十二代当主竹田準氏の肩が小さく揺れていた。『学問は思想の基となり、思想は志となる。志は受け継がれ、やがてこの国を形作る。学生達よ、己の道を見つけ道を修めよ。道に迷うたら歴史に学べ、お主達は一人ではない。先人たちの思いが、お主達を守っているのだ。』

感動の嵐と鳴りやまぬ拍手の中で幕が下り全てが終わった。改めて修猷を想う一瞬であった。

劇団との出会い

昨年三月、本校ホームページの「修猷の四季」の題材を求めて甘棠館跡地を訪ねた。「修猷館史跡巡り」という地図を頼りに唐人町商店街をしばしさまよった八百屋さんに「甘棠館」を尋ねると「その二階です。」と、『唐人町プラザ甘棠館』を指差された。おもむろに二階に上がり、偶々居た若い女性に尋ねると、「私もよく知らないからその事務所に聞いてみたらどうですか。」それが、「劇団シヨーマンシップ」との出会いだった。

その事務所の壁面に「唐人歌舞伎・筑前亀門烈伝」とポスターがたくさん掲示されていた。何と甘棠館初代館長亀井南冥やその思想を受け継いだ門下生を題材とした創作劇をこの小さな劇団は毎年上演し続けていたのである。

竣工記念のオリジナル脚本

折しも直前の二月には講堂建設工事が始まり翌春には十年がかりの校舎大規模改築工事が終わる。

その竣工記念をどのような形で執りおこなうかが私の頭を悩ます事柄の一つでもあった。「修猷館と甘棠館の創立時の劇を本校の講堂で行うことは可能ですか？」と聞くと、劇団関係者は即答せずに「修猷館の竹田定良は真面目ですから・・・」と、言葉を濁された。

それから二ヶ月後、仲谷座長とスタッフの方が学校へ来られた。修猷館の歴史、修猷文化などをご理解頂き、上演日程、費用等細部にわたって何回も話し合いを持った。オリジナルな脚本が書かれ、当日には本校剣道部の生徒も藩校生徒として出演し、反響の大きからRKBミュージズよりDVDも作製された。

今に続く天才の生命力

今から振り返れば、「劇団シヨーマンシップ」との出会いが遅すぎもせず、更には早過ぎもせぬ絶好のタイミングであった。まさに亀井南冥が私をして甘棠館に呼び込んだかのようなものである。

生命三十八億年の歴史の中で、単細胞から多細胞へ、そして人類へと進化する中で、一番の大きな転換点のは、他の生命体を内に取り込み一体化できるようになったときだといわれている。

「修猷の歴史の扉は甘棠館の亀井南冥が開いた。この天才を抜きにして修猷の歴史は語れない。」と言われる。修猷館は甘棠館を併合し、一体化を図ったことにより今に続く生命力を得たのである。

(なかしま としあき・敬称略)

修猷館高校平成20年度「修猷

NO.140号」の巻頭言より転載。



中嶋 利昭 館長

来館者アンケート



「海の博物館」の評価は・・・。
リニューアル後の展示内容を来館者はどう受け止めて
いるか・・・。

来館者が寄せたアンケートからさぐった。

昨年10月から本年10月までの13カ月間にアンケート用
紙76枚を回収した。

質問項目は二つ。最初の質問では
「展示の何が興味深かったか」を聞いた。
11項目(今年3月の大型ジオラマ展示
後は12項目に増やした)を列挙して1
番から5番までの順位を記入しても
らった(人気投票)。

二つ目の質問では新設した「海の部
屋」を中心に館全体の印象や展示内容
について、率直な感想を書いてもらっ
た(評価)。

まず(評価)をご紹介しよう。

◆全体の印象◆

・新緑と海を十分に味わわせて頂き、
この世の暗いニュースを一時忘れさせられるぜいたくを
しました。またゆっくり館内を観ることができ、とても
リッチな時間を過しました。(糟屋郡篠栗町・女・会社役
員・66歳)

・福岡にいなが知らないことばかりでとても勉強にな
りました。丁寧に展示品の案内をして頂き、より深く知る
ことができて良かったです。(福岡市・女・非常勤職員・30歳)
・すぐくつろげて良かったです。博物館にこんなところ
があるとは思いませんでした。(飯塚市・男・学生・24歳)



館の前庭に大きなゴザ(館の備品)を敷いて持
参の弁当を楽しむグループ。サクラの季節は歩
道のでこぼこや樹木の繁茂が目立つ。

・自販機があるといい。飲み物は頼みづらいです。(募金箱
はあるし、だれもないし)。(福岡市・女・会社員・26歳)
・美しい景色ですね。もう少し広告したほうが良いかも
しれません。でも(入館者が)多すぎるのはどうでしょ
うね。この静けさが好きです。(福岡市・女・無職・55歳)
・今日は天気が良いなかつたのが残念でした。晴れたら
もっと素晴らしい空間だと思います。(那覇市・女・28歳)

・渡船場から博物館に来るまでの道が、花や木が沢山あ
り、昆虫もツバメもいて、のどかで楽しかった。5月23
日来館。博物館内もきれいで、展示物が見やすかった。
(東京都葛飾区・女・事務員・40歳)

・永福寺の横を上ってきて門が
あったのでここかなと思いま
したが、博物館の建物までの
石畳の道がちよつと(荒れてい
る)。草は生えているし残土置
場みたいなのがあって道を間
違えたかと。これでは来館者
も引き返してしまいますよ。
(福岡市・女)

・窓外の樹を少々刈り込んで海
の眺望をもう少し広げると良
いと思います。(東京都三鷹市・
男・大学教授・43歳)

・素晴らしい場所です。しかし入り口の銅像(真藤慎太郎)
は亀井南冥にすべきですね。真藤像は下の庭に移して
はいかがでしょうか。(那覇市・男・会社員・58歳)

・檀一雄についての展示も欲しい。(福岡市・男・無職・64歳)
・眺めも良く、静かでのんびりとリフレッシュできました。
お食事(有料)のサービスがあったらいいなと思いまし
た。(福岡市・女・販売員・21歳)

・開館日が変則的。今日はたまたま開いていたので訪れ
ました。もう少し時間を取ってまた訪れたいと思います。

(東京都・女・33歳・会社員)
・海がとてもきれいでした。自分が写った写真(フォトコン
テストの作品)があつて嬉しかった。(福岡市・男・能古中
3年・12歳)

・写真がいっぱいあつて面白かった。とてもくつろげていい
と思います。(福岡市・女・能古中3年・13歳)

・博多湾は素晴らしいけど、閑散期。1月16日来館。二
らしく寂しかった。特別展は素晴らしい。もっと沢山の
人に見て欲しい。(東京都江東区・女・主婦・59歳)

・ゆつくり出来てとても良かった。(東京都・女・会社員・33歳)
・すぐ眺めが良かった。海に関するものをもっと置いて
欲しい。(福岡市・女・10歳)

・以前と比べて明るくきれいになり気持ちよく過ごせ
ました。有難う
ございました。
(福岡市・男・無職
・63歳)



亀陽文庫の創設者真藤慎太郎氏(福岡市出身、元日
魯漁業副社長・故人)の銅像。東京都内から移設した。

・初めて能古島に
来ました。ここ
から観る景色が
全部好きになり
ました。また来ます。(北九州市・女・栄養士・21歳)
・少し暑い。10月13日来館。エアコンを入れて欲しい。
(福岡市・男・会社員・55歳)

・能古島には何回も来ているが、この博物館は初めて訪問
した。これだけの施設なのだからもっと多くの方が利用
するようなPRが必要と思う。(福岡市・男・65歳)

・展示物に思わぬ感動を覚えました。夕暮れの能古島が
青春を再び呼び戻してくれたようです。時間があればも
う一度鑑賞したい。(福岡市・女・主婦・71歳)

・とにかく景色が素晴らしい。コーヒーがおいしかった。係
りの人のお話もとても楽しかった。桜の時期にまた伺い
たい。(福岡市・女・OL・44歳)



牛島竜介さんが世界一周航海に使った本船用霧笛の轟(ごう)音に驚く子ども。

・井上陽水の「能古島の片思い」を初めて聴いて感激しました。夜景は美しく、桜の季節も素晴らしいだろうと想像しました。能古島に由来した色々な知識が広がり

・とても素敵な眺めで大変気に入りました。対岸を一望できる場所って初めてでした。またゆっくりのんびり友人と眺めに來ます。(福岡市・女・非常勤職員・30歳)
・「能古島の片思い」を聴きながら海を眺めるなんて粋(いき)なほからいですね。陽水時代の自分としては涙がこぼれそうになりました。(福岡市・女・53歳)

◆「海の部屋」◆

・窓辺に広がる博多湾の景色が素晴らしい。なんとも心地よい素敵なお時間を過ごせました。コーヒーもおいしかったです。感謝しています。(福岡市・女・45歳)
・昔のことがよく分かりました。景色が良かったです。また來ますね。(福岡市・女・学生・17歳)
・メツチャ景色きれいで感動です!! こんどは晴れの日に來たいと思います☆☆(福岡市・男・高校生・17歳)
・とても素敵な空間です。自分たち独自の歴史について考えるラッキーな機会になりました。次回は大人だけでゆっくり來てみたい。(福岡市・主婦・37歳)
・整然としてきれいだっただ。「命の授業」の写真がとても良い。(福岡市・女・事務員・64歳)
・能古島に住みたくなりました。(福岡市・女・バイト・40歳)
・素晴らしいのひとこと。機会があったらまた來ます。(二宮市・男・会社員・55歳)

・初めてきました。対岸の福岡市内が分かるようなものがあればいいと思います。ジオリマ展示前の1月3日來館。(東京都世田谷区・男・会社員・45歳)
・窓越しに見る光景が分かる主な山や建造物などのガイド図があれば良いのではないのでしょうか。同じく11月22日來館。(福岡市・男・68歳)
・福岡市が一望できて落ち着いた空間でした。ゆっくり出ました。(広島市・男・会社員・52歳)

・素晴しいのひとことです。いつも向い(百道浜)の我が家からこちらを眺めています。また來ます。(福岡市・女・主婦・60歳)

◆サザエさん誕生◆

・貴重な長谷川町子さんのイラストを見ることが出来てとても嬉しかったです。生き生きとしたイラストはずっと見ていると飽きませんでした。福岡にいながら知らないことばかりで、とても勉強になりました。丁寧に展示品の案内をして頂き、より深く知ることができて良かったです。(福岡市・女・非常勤職員・30歳)

◆史上初、ヨットで太平洋単独往復◆

・ここは私の大好きな場所です。毎年桜を見に來ていますが、子どもが死んで3年ぶりに來ました。3月29日來館。涙が出ただけで良かった。桜が待っていてく

ました。(福岡県・女・51歳)
・海の部屋からの博多の町は最高でした。もっとアピールして沢山の方が來館して鑑賞できたら良いですね。(福岡市・女・主婦・62歳)
・いつもとは反対の方角(能古島)から福岡市内の方を見て素敵だなと思いました。大きなガラス窓の向こうは素晴らしい写真を見ているように感じられました。(福岡市・女・主婦・63歳)



衰えないサザエさん人気。

◆亀井南冥◆
・金印の話や東西の学問所、亀井家の文章に興味がありました。(福岡市・女・53歳)

・私も引揚者です。21年10月に引揚げてきました。写真やビデオを見て感動しました。もういつペン來たいですね。(福岡市・女・無職・82歳)

・母や姉たちに聞いていた引揚げ時の話が、展示された絵やコメントでもよく分かりました。戦争の経験はしたくない、させたくないと思っていました。(福岡市・女・無職・58歳)

◆海外引揚げの記憶◆
・引揚げ港といえば舞鶴しか知らなかった。博多港の記録を見たのは初めて。伯母が満州引揚げ者で、ソ連の悪口ばかり聞かされてきたが、こんなに悲惨なものとは知らなかった。原爆と引揚げは中身が違うが、どちらも二度と起こしてはならない。(福岡市・男・無職・61歳)

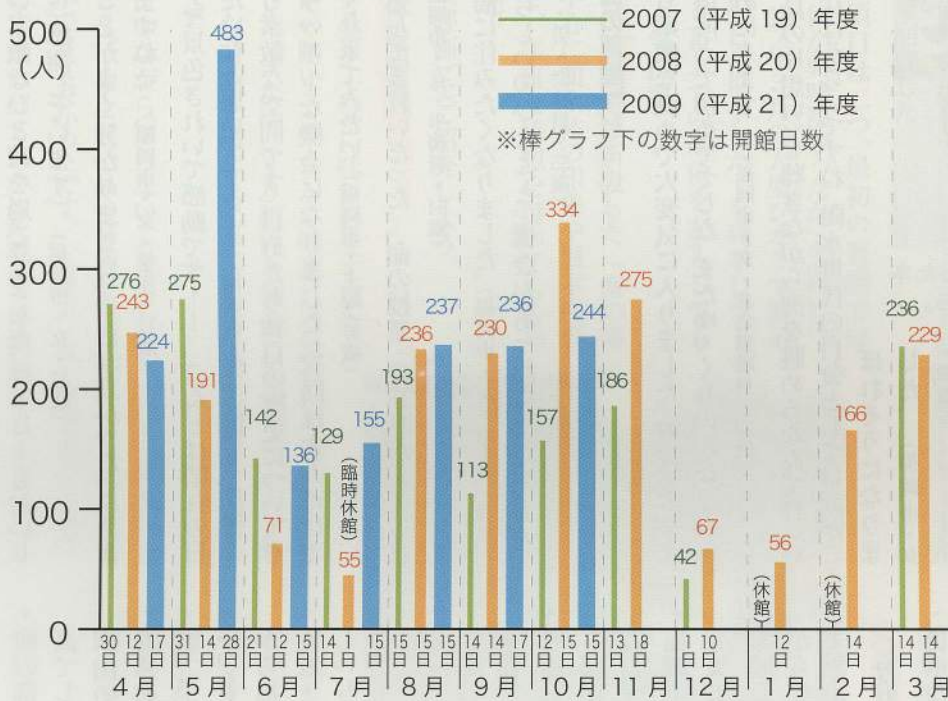


60数年前の「海外引揚げの記憶」はいまも生々しい。

◆別館2階の)上がってすぐのところに掲示されている『海外引揚げの記憶』の森田さんの説明文にジーンとなった。「母さんの手を離さないで...」。当時3歳だったばかりのイメージと重なりました。優しく強い母でした。(福岡市・男・無職・63歳)

・牛島さんと一緒に旅をした犬のスキツパーはその後どうなったか気になります。(福岡市・女・会社員・49歳)

最近3年間の入館者数(月別)推移



入館者数

月間最高483人を記録
13ヶ月間、毎月3ケタを達成中

最近3年間の各月ごとの入館者数をグラフにしてみました。開館日数との関係で単純な比較は出来ないが、ここでも20周年記念特別展の効果は顕著で、昨年12月と今年1月を除き今年10月までの13ヶ月間、毎月3ケタの入場者数を記録。本年5月のフル操業では483人の最高記録をマークした。

展示物の人気投票

首位は「海外引揚げの記録」

地元の昭和史に深い関心

「え!!舞鶴港じゃなかったの」。「博多港が引揚げ者受け入れ国内一だなんて知らなかったよ」。別館2階の展示「海外引揚げの記憶」が来館者アンケート「興味深かったもの」のトップを占めた。既に半世紀以上前になる昭和史のひとコマに、多くの来館者がくぎづけになった。

敗戦直後の混乱期を知らない若い人たちは引揚げ漫画家の会のイラストに見入った。「亡くなった赤塚不二夫さんもこんな苦労をしたのか」。「学生風の男女がしんみり話し合っていた。引揚げ体験者とおぼしき高齢者の男性は会場に設置した記録ビデオの映像を前に、そつと涙をふいていた。1時間近く動こうとしない初老の女性の姿もあった。

ついで「ヨット青年牛島龍介さん」が人気を集めた。こちらは地元出身の若者が40年前にやってのけた快挙。しかし多くの来館者が「ウシジマ フー?」の有様だった。「同じ時代の堀江青年は知っていますか」と異口同音に話し、郷土のヒーローが見事に忘れ去られている現実に驚いていた。「能古博物館が取り上げてくれなかったら完全に忘れ去られていましたね。」と変なほめ言葉に恐縮する一幕もあった。

総じて昭和史の関心が高く、サザエさんと百道浜の展示も上位になった。

設問「特別企画展を見て興味深かったのは何でしたか」

1番から5番まで順位を付けて下さい。

順位	1番	2番	3番	4番	5番
① 海外引揚げの記録・写真	13	4	7	2	2
② ヨットマン牛島龍介青年の記録・写真	9	9	7	3	5
③ 新たに建造した木製の和船	9	4	5	5	2
④ 長谷川町子さんの写真	9	4	6	3	2
⑤ 長谷川町子さんと百道浜の関係	5	2	4	6	4
⑥ 海外引揚げ漫画家「の作品集」	4	2	3	2	4
⑦ 木製の小型ヨット	3	6	3	3	4
⑧ 森田孝次さんの書下ろし作品6点	2	3	2	3	2
⑨ 蒙古軍船の礎石	1	1	3	10	3
⑩ 五ヶ浦廻船の实物模型	1	1	3	10	3
⑪ 博多湾の大型ジオラマ	2	6	3	2	4
⑫ 日の丸と国際信号旗の掲揚ポール	3	2	4	5	1

※数字は入館者による投票数。⑪は本年3月、新たな展示に伴い追加した項目

特別展効果で入館者4割増

最近5年間の開館日数と総入館者数をまとめた。無料入場者(中高校生以下や招待、取材など)を含んでおり入館料に直結するデータではない。

注目されるのは平成20年度の1日当たり入場者数の増加である。8月1日に開幕した20周年記念特別展の効果を反映して前年度に比べ4割増しになった。

◇最近5年間の開館日数と総入館者数◇

	開館日数	総入館者数	1日当たり
平成17年度	275	2,943	10.7
18	275	2,615	9.5
19	165	1,749	10.6
20	151	2,153	14.3
21	122	1,715	14.0

<注>

平成21年度は10月末まで7ヶ月間のデータ。

グループの来館増加 高校生、母子、郷土史を学ぶ会……

グループで館を訪れる人々が増えてきた。

今春4月、福岡県立修猷館高校の生徒たちが中嶋館長に引率されてやってきた。亀井南冥と修猷館との関わりを南冥劇の校内上演(本誌3頁参照)で知って、能古島遠足の帰途立ち寄った。

夏8月には平和を考える会の女性たちがお子さんと連れで来館した。同会は福岡友の会雑誌「婦人の友」愛読者の全国組織のメンバーが中心。「日野原ホール」を使って引揚げ体験者の話を聞き、持参した「日の丸弁当」を食べて敗戦後の食糧難を偲んだ。



海外引揚げ者の体験談を聞く。戦後世代の母親と子どもたち。

秋10月には「郷土史のぼせもん倶楽部」の一行が訪れた。甘菜館の地元福岡市中央区唐人町で郷土史を研究する市民集団だ。「海の部屋」で能古公民館の館長らの話を約2時間にわたって熱心に聞いた。

◆主なグループ来館次の通り◆

- ▽1月 能古中学生3、牛島竜介氏筑紫丘高校同級生8、吉田福岡市長一行5▽2月 吟行7、日野原先生講演会70▽3月 愛宕体育振興会8、九大奥野先生24、能古小教員8、地元東町内会花見18▽4月 小田部公民館5、修猷館高校教員及び生徒27、光岡句会7、謡曲の会9、新老人の会15▽5月 小田部公民館25、九大能古会OB会32、光岡句会31、デイサービス清和園24、シルバー人材センター19▽6月 福岡高校OB25▽7月 西日本リビングの旅31、地元大学生16、地元旅館投宿者20▽8月 平和を考える会61、少年科学文化センター165▽9月 大阪同企連10、のぼせもん倶楽部7▽10月 西区公務員退職者連絡会22、のぼせもん倶楽部18、山の会8



関公民館長に島の歴史を学ぶ「郷土史のぼせもん倶楽部」の会員たち。



修猷館高校の生徒たち(前列右端は中嶋館長)

「未来をひらく・福澤諭吉展」に出品展示

福岡市美術館で開催

当館が所蔵、常設展示している亀井南冥と長子昭陽の掛け幅が、5月2日から6月14日にかけて福岡市美術館で開催された「未来を開く・福澤諭吉展」に出品展示された。写真。

亀井南冥と福澤諭吉はどのような関係にあったのだろうか。「福澤諭吉の思想形成」(今永清二著、1979年発行)は次のように記している。

「福岡の儒者亀井南冥(1743～1814)と長子昭陽父子の学風は、福澤の師

・白石照山に強い影響を与えたと『福翁自伝』は言及している。南冥の名は今日、志賀島で発見された金印をいち早く実証的に

研究したことで知られるように、事物への学問的なまなざしは福澤にも影響を与えている。」



親子で学ぶ五カ浦廻船クルーズ

2度目の開催 西区の行事に移行

20周年記念事業の一環「親子で学ぶ五カ浦廻船クルーズ」は昨年引き続き小戸ヨットハーバーで9月27日(日)に開催した。今年から福岡市西区の「西区まるごと博物館IN小戸」(主催・西区まるごと博物館推進会)に移行。事業継続に弾みがついた。



黒田理事のていねいな解説。

参加者は総勢14人。ハーバーのクラブハウス2階で座学を行い、黒田康介理事の解説で能古島や糸島半島の廻船の歴史を学んだ。江戸時代の輝かしい史実を知る人は地元でも少ないが、「目の前の海に千石船が50隻も浮かんでいた」と黒田理事が話すと、子供たちばかりか若いお父さんやお母さんまでが驚きの表情を見せた。

クルージングは昨年同様2隻の外洋ヨットを使って行った。救命胴衣を付けた親子は絶好の風のもと約2時間にわたって「先人の海」を帆走した。

天候に恵まれながら参加者数は予定した50人を大きく下回った。主催者が参加費1人千円(昨年は無料)を徴収したのが一因とみられる。来年の検討課題だろう。



親子を乗せ出航する外洋ヨット。背景は能古島。

